



2020年2月3日
株式会社立花商店
生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 1号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

以前に発行していた週間カカオニュースですが、この度、再開することと致しました。長くこの仕事をしておりますが、特に最近カカオを取り巻くいろいろな変化を感じる事が多いです。

例えば、西アフリカの新価格制度（LID制度）や、中米やアジアの新しいカカオ生産地の勃興など、良い話も悪い話も、消費国に直接関係ある話も、あまりない話も様々な事が世界では起こっております。インターネットを通じていろいろな情報に触れることはできますが、カカオやアフリカの情報は英語、フランス語でのリサーチが必要であり、ますます労働時間が少なくなる現在においては情報を自ら探すほどの時間はなかなか持てないと思います。カカオやチョコレート業界で皆様にお世話になっている一つの恩返しとして、情報発信や情報整理でお役に立てるのであれば幸いです。

基本的には固い情報が多くはなりますが、時折チョコレートやスイーツの話も織り交ぜながら意義あるものにしていければと思っております。

1, 今週のカカオトレーダーの目 《アマゾンカカオに注目》

いよいよバレンタインシーズンの始まりを受けて、サロンドショコラ東京2020に訪問してきました。今年が目玉の一つは“アマゾンカカオ”。アマゾンの料理人として有名な太田さんが2年前くらいからいろいろな形で日本に紹介してきました。今回は会場のイートインでこのアマゾンカカオを利用した盛岡冷麺とビビン麺が提供されました。



【盛岡冷麺はカカオが効いた出汁】 【ビビン麺には大量のカカオマスを振りかけて】



【アマゾンカカオのカカオマスと太田シェフ】 【銀座三越でのイーズ様の売り場】

更にアマゾンカカオのヒット商品は続きます。銀座三越で開催中の「GINZA SWEETS COLLECTION」でも前述の太田さんが紹介したアマゾンカカオを使用したシュークリームと、バターサンドが人気商品として注目されています。この商品を製造しているのは、この春に日本橋のパティスリー・イーズ (ease) を開業予定の大山恵介シェフ。アマゾンカカオシュークリームは、注文を受けてからクリームをつめて提供されます。バターサンドは甘さ控えめ、中に入っているラズベリークリームとの相性も良いです。



【バターサンド】

【アマゾンカカオシュークリーム】

カカオの特徴を生かしたチョコレートは昨今沢山の商品が出来ましたが、今後は食事系、パティシエさんの作る洋菓子の中に拘りのカカオが特徴を引き立てる原料として活躍していきそうな流れが来ている気がします。

*世界中でいろいろなカカオを見ている私個人としては、品種や定義があいまいな名称はプロモーションの為だけに利用されて独り歩きしてしまう可能性があるの少し慎重な気持ちを元々もっていますが、今回はその話はさておき、新しい商品のトレンドをレポートさせていただきます。

2、アイボリーカカオ豆港湾着荷状況

アイボリーは順調な作柄、集荷が継続。

政府のカカオ統計に詳しい筋への調査によると、1月27日から2月2日までの1週間でのコートジボワールのカカオ豆の港湾への着荷数量は63,145トンでした。昨年同時期の週間着荷数量は65,832トンであった。

また、政府のデータによると、シーズンが10月1日に始まってからの総到着量は147万トンと推定され、前年の同時期までの着荷数量は約137万トンであった為、昨年を上回るペースでの集荷が進んでいます。

3、ブラジルカカオの着荷状況

2019年全体でのブラジルカカオ生産数量は減産。

ブラジルのメイン産地であるバヒア州からの到着は、1月26日に終了した週にその前週の40,847袋から35,177袋に減少。

ブラジル全体では1月26日終了した週に到着したのは58,492袋/約3,800トン（前週59,036袋から減少）

2019年のブラジルのココア生産量は179,337トンで、前年比9.5%減少。そのうち、バヒア州は前年比12.3%減少して109,853.5トン。他の州の合計生産数量は、前年比4.8%減の69,483.7トン

4、カメルーン南西部のカカオ価格状況

政情不安を背景に、カカオ南西部でココア価格が下落。

カメルーン・ヤウンデのカカオ生産者とバイヤーによると、南西部での選挙前の政情不安により紛争が継続して起こっており、それを懸念したカカオバイヤー南西部のカカオ生産地域から距離をおいていることから、買い手が少なく価格が下落した。

今週1キログラムのカカオ豆は1,280 CFAフラン（2.15ドル）で販売され、前週のXAF1,350から5.18%減少。カメルーンには、今週末に予定されている2つの立法および議会選挙がありますが、英語圏の分離主義者による攻撃によって選挙のキャンペーンが中断される事件が起こっている。

5、ロンドンカカオ先物 1月最終週のトピックス

ヘッジファンドはロンドンカカオを強気買いで、ロングポジションを積み上げ、過去8週の最高値に。

ヘッジファンドのマネージャーは強気でロンドンココアを買い続けており、純ロング（買い）ポジションを先々週の5,739ロットから69,110ロットに増加させました。先週の1週間ではロング単体（買い単体）が5,903ロット増加して69,622ロットになりました。一方、ショート単体（売り単体）では、先々週の164ロットが512に増加するだけにとどまった。結果として、純ロングポジションは7万ロット付近まで増加している。

6、ニューヨークカカオ先物 1月最終週トピックス

カカオ買いに強気継続し、純ロング（買い）ポジションは8週間の最高値に上昇。

ヘッジファンドは先週、NYココア市場で引き続き強気の買い付けを続け、純ロングポジションが8,860ロット増え、合計で63,051ロットまで上昇した。この63,051の純ロングポジションは直近の8週間で最も多い。

ロング単体では先週1週で9,528ロットから100,899ロットの上昇し、このロング単体の合計数字は過去21か月で最高。一方、ショート（売り）単体のみでは、668ロットが37,848ロットにまで上昇。この短期単体での合計数字は直近5週間での最高数値であった。

7, カカオ相場の基礎知識：「参加者を知らう！編」

参考) 1月末時点のカカオ先物建玉の状況 ICE UK (俗にいうロンドン市場)

11) US CFTC	12) UK ICE	13) NYSE LIFFE								
生産者・流通業者・加工業者・需要家			先物 建玉	増減	先物・Optn 建...	増減	先物 トレダ-	増減	先物・Optn トレ...	増減
ロング	278057	-34350			279447	-33874	89	-1	89	-1
ショート	468046	-47439			470572	-47291	111	-2	112	-2
ネットポジション	-189989	13089			-191125	13417				
強気 (%)	-40.6				-40.6					
スワップディーラー										
ロング	287677	25086			288948	24890	32	-3	32	-3
ショート	6774	2065			6774	2065	5	2	5	2
スプレッド	42003	-1753			45049	-691	26	1	26	1
ネットポジション	280903	23021			282174	22825				
強気 (%)	4146.8				4165.5					
資金運用業者										
ロング	90042	-13324			89721	-13873	41	-4	41	-5
ショート	34719	13648			34510	13552	30	7	31	8
スプレッド	69197	-758			71523	778	46	2	46	2
ネットポジション	55323	-26972			55211	-27425				
強気 (%)	159.3				160					
その他業者										
ロング	12621	1461			12573	1730	12	-4	11	-4
ショート	159608	6604			159727	6696	17	1	18	1
スプレッド	72398	817			73208	861	27	-1	27	-1
ネットポジション	-146987	-5143			-147154	-4966				
強気 (%)	-92.1				-92.1					

上記の表は、先週1週間でのロンドン先物取引市場でのカカオの建玉の増減の増減と1月末時点での残高を表しています。

この表を使って、今回からカカオの先物と、取引について少しずつ話をしていければと思います。

まず今回は、カカオの先物市場に参加するプレイヤー①として実需家カテゴリー（上記の表では青い枠）とその典型的な行動パターンについて触れたいと思います。個人的な考えも多分に含まれますので、唯一の正解という類のものではありません。

A) 生産者、流通業者、加工業者、需要家：(総じて実需家カテゴリー)

これはカカオの実物を実際に使用する企業であり、ここにある数字は実際のカカオの販売者や、需要家のカカオの先物市場での売りと買いの数が表示されています。1月末時点で実需家間での先物の建玉の状況は、18.9万ロットのショート（売り）残であり、これはどういう意味かと申しますと、カカオ生産国の生産者や輸出者＝売り手側が値段を決めたカカオの数量が189万トンあり、一方で189万トン分のカカオの需要家である加工業者やチョコレートメーカーの買い付け価格はまだ決まっていなく、これからの未来で値決めをしていくという状況にあります。

ロンドン市場でのこの実需家カテゴリーの典型的な行動パターンは、まず産地筋の売り（売り価格固定）による、トレーダー勢の先物市場での売りからまずはスタートします。

これはどういう事かと申しますと、ガーナやコートジボアールではカカオ豆は1年以上先の出荷分の価格

が案内されます。この時に、原産国の販売者は相場を見ながら最終的には Outright Price=固定価格にて輸出価格を決めます。一方、産地筋から買い付けるのは、弊社のようなトレーダーですが、実際にお客様に販売するには実際に収穫もされていない為、ほとんどの場合早すぎるし、また産地筋が売りたいときは相場が高い価格の事が多いため、お客様との価格合意も直ぐにはされないことがほとんど。よって、トレーダーは原産国から買い付けたカカオを先物市場に参加し、カカオの「売り」を入れることで売りポジションを作ります。因みに取引の最低ロットは1ロットで10トンのカカオを意味します。

上記の表をもう一度見てください。赤字で囲んだ数字で1月末の実需家ネカテゴリーのネットポジションが-18.9万ロットということは産地側がたくさん売りに出ているんだな、産地筋が未来のカカオを沢山売っている、そういう時期なんだなとまず全体感をつかむことが重要です。そして、売りに出ている数量が多いということは、通常価格は下がるはずなのに、現在のように相場が高く上がっているということは、別の要因が働いているのではないかと方向性を捉えることが可能です。

もう少し簡単にうまく短く説明できるかなと思ったのですが、意外と難しいですね。今週は既に長くなりましたのでカカオ先物の基礎知識は次週も続きますので、まずはこの辺で。